

### 三河港港湾計画検討委員会（第3回委員会）における主な意見

#### 【『物流』に関する意見】

- ・ AIターミナルによる効率化や自動車産業などと連携した様々な先進的取組が確実に行われる港であることをしっかりアピールし、愛知県及び周辺地域の産業に貢献していくことを強く打ち出す必要がある。
- ・ 三河港が発展していくには、臨港道路ネットワークと背後圏との連携・接続が必要であり、それを長期構想の中に位置付けておくことが非常に重要である。
- ・ 世界または日本の中において、三河港がどのような位置付けなのかということ将来展望も含めてもう少し考える必要があると感じている。
- ・ 世界の中で競争力を持つためには、名古屋港や衣浦港などを含めた愛知県内の港をどのように連携させ、世界に売り込んでいくかという視点が必要である。
- ・ 電気自動車や自動運転化なども踏まえた、今後20～30年後の自動車生産台数や輸出量の予測値も視野に入れる必要がある。
- ・ 三遠南信自動車道の供用による経済効果を視野に入れる必要がある。
- ・ 三河港において農産物輸出に関するコールドチェーンを構築することで、この地域の活性化のみならずDXの推進にも繋がると考える。
- ・ 三河港は、三遠南信地域にとって海外との玄関口であり、国際交流・連携拠点であるため、双方を結ぶアクセス道路の整備が重要である。
- ・ 港の機能面では各地区の方向性が大体見えてきたと感じるが、それを結ぶ臨港道路が無いと一体化されていない。臨港道路及び背後へのアクセス道路の課題も議論し、港湾機能を十分に高めるよう検討してほしい。
- ・ 今後の人口減少・少子高齢化は避けられず、ドライバー不足を必ず迎える状況の中、三河港においてもモーダルシフトが活発に進むことを期待する。

#### 【『産業』に関する意見】

- ・ 愛知県の「ステーションAi」のようなスタートアップ支援拠点が、産業の集積する港エリアにあっても良いのではと思う。
- ・ 目標3「自動車産業の持続的発展と次世代産業の創出」の取組戦略について、企業連携と誘致活動に関する記述を追加してほしい。

### 【『人流・交流』に関する意見】

- ・竹島周辺を対象にまちづくりを推進し、他地区とも有機的に連携し回遊性を向上させることで、三河港における人流・交流の役割を担っていけると考える。
- ・AIターミナルやカーボンニュートラルの整備などについても、その魅力を随時打ち出し特徴をきちんと示せば、観光資源としてもとても良いものになる。
- ・豊富な資源の連携により界限・ゾーンとして一般人に認識され、それらが役割分担し重層的に連携することで地域全体の価値を上げることが重要である。
- ・ポテンシャル（魅力）の一番高いところで地域の代表するものを享受でき、立地や水辺を活用した「稼ぐ」ことのできる空間づくりが必要である。
- ・御津地区は、かつて持統天皇が訪れたなど歴史的な地区であり、それが付加価値となって観光に繋がると考える。
- ・蒲郡地区は、豊橋から浜松にかけてと岡崎から名古屋にかけての2つのマーケットがあるため三河の情報が集中する地区であり、マーケットまでの二次交通の確保が課題である。
- ・ハード整備をしても、そこに生活が無ければ豊かさや文化は育たない。生活を豊かにする港を観点として、この先20~30年かけて文化を醸成していくようにまちづくりを行うことが大切である。
- ・コロナ禍の中、個人が購入するプレジャーボートの売れ行きが好調など、バブルと言っていぐらい海周りが大変賑わっている。バブルはいずれ弾けると思うが、今回買われた船に再び来訪してもらえるように、ブランド価値を生む空間形成といったマリーナを核とした総合施設という構想は必要である。海から来て遊んでもらうという視点が重要であり、三河港の総合的な発展には不可欠である。

### 【『環境』に関する意見】

- ・海がきれいになり過ぎて魚が育たないといった状況の中、豊かな海というものがどういう海なのかを考え直すことが大切である。
- ・三河港は、他港の長期構想と比較して、環境について大変意識していると感じる。環境を土台にして港を運営していくという点は、世界に三河港を売り出し、世界から呼び込んでいくためにも大変重要な価値観であり、今後世界の流れの中でも重要な観点である。

### 【『安全・防災』に関する意見】

- ・ 平時における港の情報発信のみならず、災害時における港の状況などについても、地域毎ではなく港を核とした発信体制の強化が重要である。
- ・ 発災後の瓦礫処理と港湾の復旧については港の基本・土台にもなると考える。
- ・ 津波による浸水において、避難計画や事業継続計画のみではなくハード面での強化も重要である。
- ・ 船舶の航行安全に関して、ぎりぎりの安全ではなく、更に安全性を十分担保できるような港湾計画にしてほしい。

### 【『三河港全体』に関する意見】

- ・ 長期構想の目標と取組戦略を今後どう具体的な計画に落とし込んでいくのか、イメージを共有することが重要である。
- ・ 長期構想から港湾計画に落とし込んでいく際に、現状の課題を解決する施設計画をお願いしたい。
- ・ 長期構想を愛知県全体の目標として、港湾関係部局のみならず県庁横断的な取組戦略の推進をお願いしたい。
- ・ 新たな交通アクセスの強化が三河港の将来の発展に確実に繋がると考える。
- ・ 変化の激しいグローバル経済の中で、長期的な視点による整備が企業ニーズに間に合うのかが今後の課題である。
- ・ 地区の役割が重複・分散すると、必然的に三河港の魅力・強みが半減すると感じられるため、各地区の役割や特徴がより分かり易くなれば良いのではと考える。
- ・ 三河港の推進体制について、三河港振興会を強化し、選択と集中によるみなとづくりを期待する。
- ・ 動的に変化していく社会を見ていくために、30年先を考えつつ10年毎に見直していくことがこの長期構想を考える意味であり、これを皆様で共通認識したうえで、今後10年15年の具体的な計画をどう考えていくかが必要である。
- ・ 時代に応じた社会情勢の変化に合わせて、長期構想の各目標が引き出しになって活用されていくことを願う。
- ・ 新たな価値を生むには物と人の組み合わせが重要であり、三河港の様々な強みをバランス良く伸ばしていくことが大切である。
- ・ 国、県、市、経済界、港に関係する企業などが一体となって、三河港の一体的・戦略的・機動的な推進体制を構築できるよう願う。
- ・ 環境保全の時間軸と産業の時間軸、また産業の時間軸と港湾整備の時間軸を考えた時、長期構想における優先順位を検討する必要がある。
- ・ 長期構想に位置付けられた取組内容を港湾計画につなげて、具体的に事業化できるよう支援していく。
- ・ 長期構想の基本理念に沿って、新たな価値を見出すような港湾計画を検討してほしい。